



石橋氏屋敷跡・先屋敷古墳群



中谷遺跡



宮窪遺跡

令和6年度発掘成果大公開！



上窪遺跡



平田宮第2遺跡



史跡甲府城跡

発掘された遺跡



次号（第73号）で
ご紹介



当センターでは、大規模開発や公共工事が行われる際の緊急調査や、史跡を保存し多くの方々に公開するための整備を目的とした調査を行っています。

令和6年度も引き続き中央新幹線や新山梨環状道路建設など伴った発掘調査を行いました。発掘調査を通じて、かつての生活の跡が姿を現わしました。

今号はこの最新の調査成果をご紹介します！

令和6年度最新発掘情報

笛吹市

石橋氏屋敷跡・先屋敷古墳群

所在地：笛吹市境川町石橋

時代：古墳～中世

調査：2024年10月～2025年2月



先屋敷2号墳

先屋敷古墳（1号墳）は、^{ぜんていぶ}前庭部や^{しゅうこう}周溝から7世紀代の須恵器の甕や高坏が出土し、古墳時代終末期の円墳と推定されます。調査区西側では新たに無袖の横穴式石室を発見し、先屋敷2号墳とし、前庭部・周溝からは1号墳と同時期の須恵器の長頸壺や土師器坏などを発見しました。また、石室内からは平安時代に再利用された際に納められたものと考えられる鉄刀や墨書された甲斐型土器などが出土しました。隣接の毘沙門遺跡の調査成果と合わせ、当地域の歴史景観を考察することができるでしょう。



先屋敷古墳群と毘沙門遺跡

宮窪遺跡

所在地：笛吹市石和町河内

時代：中世

調査：2024年7月～10月

宮窪遺跡では、近世の水田としての土地利用が明らかとなりました（第1面）。また地表下約3.6m地点で中世後半の溝1条及び石組み井戸1基、人骨を伴う土坑墓1基が発見されました（第2面）。これは周辺における中世後半期の村落の存在を示しています。狭小面積（約300㎡）の調査で、村落の全貌を明らかにすることはできませんでしたが、周辺遺跡の発掘調査成果とともに、古代以降の歴史景観を復元するための重要な成果となります。



石組みの井戸

池田神明遺跡

所在地：笛吹市石和町唐柏

時代：中世～近世

調査：2024年8月～10月



水田の畦畔

池田神明遺跡では、近世以降の畑跡と天地返し跡が見つかりました（第1面）。天地返しは畑跡を掘り込んで行われていました。畑跡の内の1つは長さ約2m程度の畝のまとまりが認められます。同様の事例は、甲府市池田の東河原遺跡で見つかっていて、綿花の畑の可能性が指摘されています。また、こぶし大の礫を骨材にした中世以降の水田畦畔を2条発見しました（第2面）。水田面は東高西低であることから、往時の微地形が把握できます。

中谷遺跡

所在地：都留市小形山

時代：奈良～平安

調査：2024年3月～12月

過去には、縄文時代中期から晩期（約4,500年前～2,500年前）の集落跡が調査されている中谷遺跡ですが、今回は、奈良時代～平安時代の石組カマド付竪穴建物跡9軒が見つかりました。そのうち4軒は、床面付近から大量の焼土・炭化物が出土し、焼失したものとみられます。調査によって山間部の傾斜地に集落が形成されていることが明らかとなりました。カマドはいずれも川原石を組んでつくられていました。



平安時代の焼失竪穴建物跡

都留市

中央市

ふ た ま た だ い い ち い せ き

二又第1遺跡

所在地：中央市成島

時代：中世

調査：2023年7月～2024年5月



溝に区画された掘立柱建物跡

二又第1遺跡では、これまでの調査で室町時代後半頃（約500～600年前）の掘立柱建物跡や石組み井戸、人骨を伴う墓等とそれを囲む濠が見つかりました。今回の調査では、700を超えるピットや土坑、溝、石組み井戸、集石遺構、土坑墓等が見つかりました。石列や溝で区画された空間は、新たに4区画見つかりました。中世村落の構造を考える上で貴重な資料です。また、道路状遺構を軸とした境界線が継承されていることが想定され、周辺の土地履歴の復元に資する成果がありました。

か み く ぼ い せ き

上窪遺跡

所在地：中央市成島

時代：平安～中世

期間：2024年3月～7月

上窪遺跡は、平安時代後期～鎌倉時代の水田10枚とこれに伴う土師器が見つかりました（第1面）。また平安時代の水田13枚とこれに伴う土師器や木製品が見つかりました（第2面）。過去の調査成果と同様の生産域が確認され、調査区東側の第2面の水田の下層では、中央市域では確認されていない小区画水田と思われる小規模な単位の水田跡が発見されました。遺物が伴わないため、今後、自然科学分析等で年代を推定することにはなりますが、その規模から律令制以前の水田跡が期待されます。



小区画の水田跡

平田宮第2遺跡

所在地：中央市下河東

時代：平安～中世

調査：2024年11月～2025年3月（予定）



畑の畝（4面目）

平田宮第2遺跡では、水田や畑の地層が4層にわたって見つかりました。これらの水田や畑は、過去の周辺調査の成果から、平安時代中頃～鎌倉時代初頭頃のものと考えられます。今回の調査では、最も古い畑跡（10世紀前半頃）や最も新しい水田跡（平安時代後期～鎌倉時代初頭頃）が川の流路によって削平されている様子が確認できたほか、地震や洪水の痕跡も各所で見るができます。このことから、この時代、この地域に暮らした人々が災害に苦心しながら生活していたことがよくわかります。

あ お や ぎ ま ち ま ち や ぐ ち い せ き

青柳町町屋口遺跡

所在地：南巨摩郡富士川町青柳町

時代：近世・近代

調査：2024年7月～9月

富士川町



御蔵道跡

青柳町町屋口遺跡では、富士川開削後の水運の拠点となった甲州三河^{かし}岸の一つである青柳河岸へ向かう御蔵道跡や、水路跡と水路をまたぐ石橋が見つかりました。御蔵道は幅3m程度で横断面がかまぼこの形をしています。長年の往来によって道上部は硬化し、数度にわたって礫を敷いて改築をしていることがわかりました。水路遺構の断面はV字で木杭が等間隔に打たれていました。これらの築造時期は近世～近代です。旧公図と照らすと遺構と一致し、近代初頭の周辺景観を考察する貴重な成果が得られました。

し せ き こう ふ じ ょ う あ と
史跡甲府城跡所在地：甲府市丸の内1丁目
時代：近世
調査：2024年6月～12月

史跡甲府城跡は、甲府市丸の内に位置する県内唯一の高石垣を持つ近世城郭です。大手門に近接した内堀の復元整備のため、令和4年度から^{がくやくわ}楽屋曲輪東面石垣の調査を行っています。令和6年度は石垣の直下に礫を充填する根切りと、その上に密に組まれた胴木等の地盤改良や補強の痕跡を確認しました。一方、途中から根切りや胴木は設置されなくなっていることも明らかとなりました。近接した地点間における地盤改良・補強の違いについては、今後の課題です。



胴木関連遺構（B区）

し せ き こう ふ じ ょ う あ と い し が き い じ か ん り じ ぎ ょ う
史跡甲府城跡石垣維持管理事業

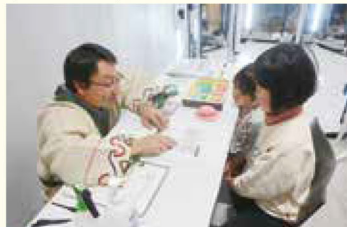
石垣の点検の様子

史跡甲府城跡に残る石垣の大半は、石をあまり加工せずに積んでいく「野面積み^{のづらづ}」と呼ばれるものです。これは全国のお城の中でも特に古い石垣であり、甲府城跡のように良好に残る城跡は多くありません。この貴重な文化財を後世に残すための点検を実施しています。これにより、石の緩みや割れなど、石垣の崩壊につながる傷みをいち早く発見し、文化財の保護と来城者の安全を確保できるよう努めています。目視や計測のほか、専門の職人の手による詳細な点検を行い、必要な補修を行っています。

普及活用

発掘調査の成果や調査研究してわかったこと、文化財の魅力などを広くみなさんに伝えることもとても大事な活動です。現場見学会、発掘体験、シンポジウム、マチナカ博物館、史跡ウォーキング、出張講座、学校等出前支援、教材用考古資料等貸出、職場体験・インターンシップなど多くの皆様にご参加いただきました。開催情報など最新情報はホームページでご確認ください。

ご参加ありがとうございました

小学校での出前支援事業
弥生土器作り体験甲府城が大好きな私たちと歩く、
城・城下町さんぽ 2024
(2024.7.7)目指せ古墳マスター
～大丸山古墳ってどこだ!?～
(2024.11.20)マチナカ博物館 2
～JOMON SWEETS FESTIVAL2024～
(2024.12.1)マチナカ博物館 3
こうこがく、考古楽－体験して学ぶ考古学－
(2025.1.13)中央日本4県連携企画シンポジウム
来てみて！城と城下町
(2025.2.16)

毎日街のどこかで行われている発掘調査。山梨県では年間200件を超える発掘調査が行われ、遺跡は当時の人たちの暮らしや文化を生き生きと伝えてくれています。遺跡は私たちのすぐ身近にあるものです。みなさんも新たな山梨の歴史に遭遇してみませんか？（上）

